



認知症まちづくり 地域円卓会議 in 北中城村

北中城村における認知症の方も参画可能な
農福連携を実現させるためのネットワークづくりを考える

実施報告書（10/8 時点）

日 時： 2024 年 8 月 28 日（水）18:00-21:00（受付開始 17:30-）
場 所： 北中城村あやかりの杜 多目的ホール（沖縄県中頭郡北中城村喜舎場 1214 番地）
主 催： 特定医療法人アガペ会、沖縄認知症見守りコンソーシアム
（公益財団法人みらいファンド沖縄、公益社団法人沖縄県地域振興協会）
後 援： 北中城村
協 力： NPO 法人まちなか研究所わくわく



報告書作成
NPO 法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

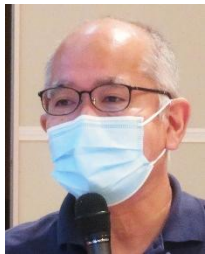
ACTIVITY REPORT

【報告】認知症まちづくり地域円卓会議 in 北中城村



■日 時：2024年8月28日（水）18:00-21:00
■場 所：北中城村あやかりの杜 多目的ホール
■着席者数：9名（論点提供者、司会、記録者含む）
■参加者数：22名（福祉・医療機関、社会福祉協議会等）

■主 催：特定医療法人アガペ会、沖縄認知症見守りコンソーシアム（公益財団法人みらいファンド 沖縄、公益社団法人沖縄県地域振興協会）
■後 援：北中城村
■協 力：NPO 法人まちなか研究所わくわく



論点提供

泰 真実（特定医療法人アガペ会 作業療法士）

真名井 敦（特定医療法人アガペ会 事務部長）

北中城村における認知症の方も参画可能な農福連携を実現させるためのネットワークづくりを考える

特定医療法人アガペ会は、休眠預金を活用した認知症まちづくり事業において、農業リハビリテーション「遊農くらぶ」を展開し、今夏から宜野湾市から北中城村へ移転しました。医療の専門家として、診断の有無を問わず、制度の狭間によって取り残される高齢者の居場所づくりを農作業を通し、参加者それぞれの主体性を大切にして活動しています。同法人は、昨年北中城村と「農を活かした健康・福祉の里づくりに向けた推進事業」を円滑に進めるべく協定を締結しました。今回の円卓会議では、北中城村や民間業者、地域との連携強化を目指すためのネットワーク体制について、みんなで話し合います。

センターメンバー



多和田 洋子
遊農くらぶ
ボランティア



山川 悟史
北中城村
農林水産課
農村活性化係
主任



今田 達也
ウィングアーク
1st 株式会社
ダイバーシティ雇用室



久高 郁枝
社会福祉法人
北中城村
社会福祉協議会
事務局長



吉川 太朗
地域再生推進法人
株式会社 EM 研究機構
研究部技術開発課／
北中城村 EM ユニバーサル
ビルレッジ
開業準備室

認知症まちづくり 地域円卓会議 in 北中城村

2024. 8. 28 (水) ①
18:00 ~ 21:00
④ 北中城村 あやかりの杜
多目的ホール

北中城村における 認知症の
方も参画可能な農福連携
を実現させるための
ネットワークづくりを考える

主催 特定医療法人アガペ会
沖縄 認知症見守りコンソーシアム
(公益財団法人みらいファンド沖縄、
公益財団法人沖縄県地域振興協会)

後援 北中城村
協力 NPO法人 まちなか研究所小く

論点提供

泰 真実 さん
医療法人アガペ会 作業療法士

コロナに負けない 健康な村づくりと
農業リハビリテーション

遊農くらぶ

宜野湾市 2023.4 ~ ⇒ 2024.8 初転

交流
健康
地域

コロナ禍で 認知症が 重症化
↓
外出・居場所づくり

医療・介護・福祉の狭間

認知キウ低下の段階で
受けられるサービスが 乏しい

交流
改善している

医療(介護)と福祉の狭間のある
期間をどう支えるか

① 今ある事業の活用 ② 遊農くらぶ事業の継続

真名井 敦 さん

アガペ会 事務部長

楽農クラブ

2011.3 青空デザインサービス

二次予防の方と対象とした
サービスの充実が必要

要支援・要介護
状態に陥っている
高い高齢者

肉じもり予防
認知キウ低下予防
うつ予防

農作業による 認知キウ低下予防教室

知的活動
効果

自分だけ
くつろぎ
受ける
共有
こと

運動の
効果

高め

コミュニケーションの
効果

事業として成立
45円/回 × 30回
畑あるよ、農業が
こころにいい
11/16 くらい

認知症と共に生きる人々
の心理的ニーズ



夕和田 洋子 さん

遊農くらぶ ボランティア

宜野湾市
中原区

2023.11月～

はこんだり、利用者の方といっしょに
農業たのしんでいる

一から勉強

一週間に1回

● 雨の日、つゆ時期
活動できず、さびしいですな～

● 熱中症の対策 できた

野菜は皆でわけて

もち帰っている → 皆々とても喜んで



山川 悟史 さん

北中城村 農林水産課 農村活性化係

農を活かした健康・福祉の里づくり事業

荻道・大城地区 (約12ha)

※1段階 株式会社EM研究機構 / 再生可能エネルギー施設等

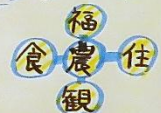
※2 " " / 農産物直売所等

※3 " 医療法人了がハロ会 / 医療福祉施設

※4 " 滞在型農園、市民農園、福祉農園

※5 " グリーンツーリズム施設 (農と観光)

※6 " 優良田園住宅



農 × 福

✓ 園芸療法による高齢者の介護リハビリ農園

✓ 高齢者の生きがい・健康づくり

「遊農くらぶ」この親和性 高い



今田 達也 さん

ウイングワークフーズ株式会社 ダイバーシティ雇用室

IT企業

バニラの栽培と北中城村安谷屋で

障がい者メンバーと

農福連携

若い方多い

10～50代

産業創出 やりがい

知的障がい割合

● 障がい者雇用 → 支援者がいることで
定着率が高まる

● 個人の特性・強みを
評価してつなげていく → やりがいへ

● 今後... 沖縄の企業へ
沖縄産の〇〇 / 採算性
作業のやりかたで様々な障がい
の方への雇用につながる

居場所
がある
必要と
思っている
人がある

✓ 農地とかがり難い、生産＋加工、販売先

評価
健康経営
離職率
法定雇用
マネタイズ...ムズかしい
社会への
フィードバック
ユニークではある



久高 郁枝 さん

北中城村社会福祉協議会 事務局長

住 働 交流 できる北中城村

障がい者

● 協働による地域づくり

● 軽度認知症の方々

農と通じたコミュニケーション...ね

地域の中で 声かけ、交流がうまれる
こと

● 事業所間連携 → 働く場
居場所

吉川 太朗 さん

地域再生推進法人 株式会社EM研究機構
北中城村 EMユニバーサルビレッジ開業準備室

地域再生推進法人 [公的メカノ
民間企業]

20万m²

1段階 来年open

2段階

ライカムからの食品さんさうり入れ

電力の地産地消

フーズマーケット

いこいのスペース

生産+加工

社協と連携など

手をつなげる可能性

農福連携

官民連携

北中城村
農と活かした健康福祉
の里づくりに向けた
推進事業

地域との連携

三育小学校
食育/環境学習

コミュニケーション
小1年生へ教えること
チャレンジ

サブセッション



身障者
不登校
にも有効

多業種
連携

農業リハ
個性を生かして

農業-生活
生命 につながる

大きなステキな
ビジョン

人々との関係
地域との接点

働く場
企業

知れて

北中城
の誇り

軽度認知症

中部農林高校
6次

食の自給率

11バが大事
その人の能力にあった

居場所

誰もが
住みたい

セッション2

ネットワーク
づくり
の大事さ

地域で
学ぶべき

農を通して
うまれる効果
いろいろある

外に出して
なかった

制度事業
の7つの中
でやってた

広がりか
みえた

発信も

言葉が解決
できるかも

悩みを開示
する

集まりへ
参加して
課題をげたい

いろんな業種
が集って話しあう

農
福
官
民

ものさし
評価

多業種が
課題提示できる
関係性
お互いのもの
と共有して
ほさずみえる
資源調達に
つながる
マルチステーク
ホルダーでの
対話と

離職-連携
すき間 → いろいろとつながる
中心に認知症の方とあって
知ってもらう努力
知ること

農はつながりやすい
もつ力大きい
認知症ご本人のことも知る
こと大事

行政
民間) できる
こと

600名
視察

期待値

現場が
ある
強み

10年
認知されて
いない
課題

パートナー
事業者と
周知

成功体験

ひまわり
現場から

その場を
守りつづける
運営しつづける
むずかしさ

大きな未来図
どうまっつなが
れば

企業も
活躍できる

■今後のアプローチの方向性（提案）

1. 各セクターが定期的に話し合う場の必要性

認知症の方も参画可能な農福連携を目指すには、医療、福祉だけでなく、北中城村が描く農を活かした観光、住まいなど関わるセクターが多く、住民も含めたマルチステークホルダーで対話を重ねる必要がある。まず、アガペ会が各セクターとの関係性をつくり開示して、定期的に集まり、悩みを出す場をつくろう。

2. 農福連携の評価指標を出し合おう

農福連携は、事業の採算性だけでなく、福祉的就労や耕作放棄地問題への波及効果など、様々な付加価値があり、複数の指標で評価することが重要である。各セクターが互いの評価指標を出し合い、合意することで、制度だけでない評価ができ、同時に資源も調達できるようになると考える。

■参加者によるサブセッション

北中城村における認知症の方も参画可能な 農福連携を実現させるためのネットワークづくりを考える

(参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載)

①

ヨナグニ出張

認知症カフェ

(予防) 母の経験、軽度認知症

まだわからない

支援がない

わからない

勉強会

認知症の方でも参加

ドラゴンフルーツ

簡単につくれる、楽しめる

(農業) がいい

OIST→ドラゴンフルーツ第1次～6次まで

「高校生」→商品化している

認知症方も含めて←OIST タイアップ

はばが大事

・採算性大事

・居場所づくりの意味

(能力) 合った対応を考えていく

居ごちがいい

・ネットワークづくり

・それぞれで仲間づくり

声かけを

食糧自給率 37%

戦争となでなく

上げていく 150%

平和的解決になる成果物を

皆がつくれる

加工も含めて

ドラゴンフルーツの育て方

広めている方がいて

こども食堂

②

感じた事

・農業は天候に左右されることもある。

・学生(小学校)の児童に対して、認知症についての理解や実際に関わっている方たちから話す。また、遊農クラブに来ている方たちから農業について教えてもらう。→面識ができる

・雨天時や暑い日の対応

→病院ベランダや中(室内)で土づくりの話をしたりしている。

→主催側都合で時間が午後になってしまう。

埼玉県

病院に併設されている畑で育てて、病院食にも提供

雨天時⇒押し花などを作成

花などを育てたりしている

最近、キムチやピクルスなどの調理を行っている。

オクラ⇒切ってスタンプ作り

近隣で協力して解決していく方法もある。(課題)

☆気軽に声かけして協力。

(連携)

見学→第一歩

③

・認知症だけではなく身体障がい者や不登校の子にも生かせる！

・農業はいろいろな活用法がある！

・今後の連携として長期のスパンとして色々な業種と行うことが大切！

・個性を生かした役割をみつけれたらいいな。

↳個々に合わせた支援、きっかけ作り

④

取組みを存続するために

資金について（存続）

（アイデア）

資金 2年で2000万

- ・生産物でPayできない
- ・200コでは
- ・対象者は？

☆公的なお金が使えない

ふるさと納税

周囲への伝え方

小中学生から親世代へ！

村ではなく県

- ・5年後、10年後を考えていかないと
- ・循環を考える必要
- ・コストをどうかけるか？
- ・北中城に住みたくなる

キャッチコピー

元々コミュニティーが強い

自治会

どこにでも居場所が作れる

⑤

実績、成果がすぐにでなくても!!

↳村としての未来を!!

持続可能なものとして

認知症の初期対応

福祉課もいっしょに

他の課もいっしょに取り組めたらいい!!

村役場全体で!!

一社でとりくむとハードルが高いため

得意な分野の人達で連携して!!

おたがいが力を出し合えば!!

今日のような場続けていく事が重要

損としても長期での対応

町づくり

⑥

- ・障がい者理解がすすむとサポートに繋がりやすい
- ・住んでる社会でサポートし合える事が大切
- ・企業との連携：認知症でも同じ
本人の居場所
- ・情報発信が大切
→できる人をふやしていく事
- ・1つの企業や行政だけですめると…

⑦

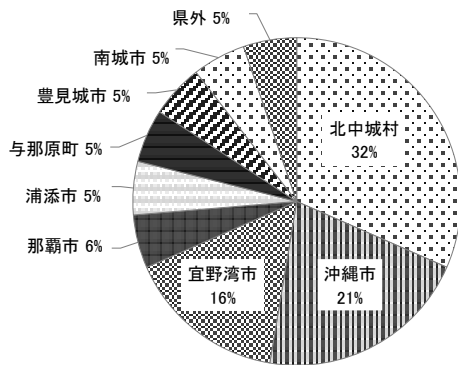
- ・身体障がいの方の定年後
- ・やっぱりお金
- ・宜野湾市では介ゴ予防事業
- ・自分達で作った物をよろこぶだけでなく、収入につなげるしくみ
- ・村内のミニデイで販売するしくみ作り
- ・企業間
- ・ボランティアを増やすには？PR、仕事、作業内容がわかりやすいと入りやすい
- ・長雨つづきで畑に来なくなってしまった人もいる

認知症まちづくり地域円卓会議 in 北中城村 参加者アンケート集計

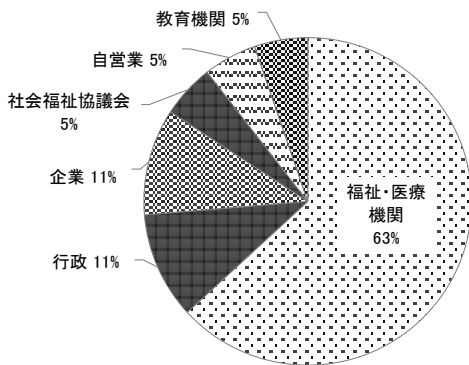
◆概要

- ・日時：2024年8月28日（日）18:00-21:00
- ・場所：北中城村あやかりの杜 多目的ホール
- ・着席者：9名（論点提供者、司会、記録者含む）
- ・参加者：22名（福祉・医療機関、社会福祉協議会等）
（アンケート回収19名、回収率86%）

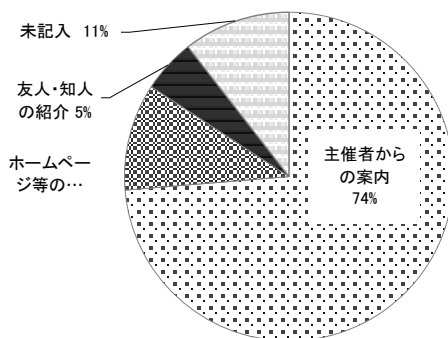
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



4. 満足度

平均：4.7（5点中）

5. 満足	4. 概ね満足	3. 普通	2. あまり満足していない	1. 不満足
14名	5名	0名	0名	0名

5. 満足度の理由

（5. 満足）

- ・ 村のつながりを再確認できました。
- ・ 1) 大変幅のひろい話題で、内容が濃く、様々なとりくみを知れたこと
2) それぞれの立場の方の役割や悩み、活動を開示することでネットワーク
- ・ 2年前まで北中城包括にいました。農福連携がよくわからず、でも農業が大好きで今後ぜひたい介入したいです。どの立ち位置で…ワクワクしました。ありがとうございました。
- ・ いろいろな方と多くの意見を交換できた。あまり知らない分野でしたので、話がきょうみぶかかったです。
- ・ さまざまな職種や業種の方たちの話を聞いて、とても勉強になりました。
- ・ 大きな未来を聴かせていただきました。北中城村に住みたくなった。北中城村で働きたくなった。
- ・ 私自身が働いている地域が何に取り組んでいるのか、具体的に知れた事、何ができるのかは明確にありませんが、協力、支援していこうと思います。
- ・ 自分達だけでなく、外の情報に耳をかたむける事も大事だと思いました。
- ・ 多くの専門家の話がきけてよかった。数十年かけて実現できればと思う。

- ・ 色々な方の話をきけてとても勉強になったし、宮道さんのメモもわかりやすくてよかった。
- ・ 円卓会議の強みが活かされたテーマ
すきまの議論で課題共有とできること思考
仲間を増やしながら課題解決
- ・ 自分の住んでいる村で農を中心とした大きな活動が起きている事が知れて勉強になりました。
- ・ 北中城村の取り組みを知れた。希望につながりました。
- ・ 課題を自分たちだけで考えるのではなく、
いろいろな企業や職種の人たちに発信することの大切さ、連携大切。
- ・ 北中城内外へもっと発信していきたいと思いました。
- ・ 子どもと一緒に活動の絵に入りたい
- ・ 全方向への周知に限ると感じました。
- ・ お互いのものさし合わせ
- ・ 情報開示の重要性和見せ方の大切さが連携をスムーズに行う、問題解決につながる。
- ・ 吉川さんのお話しの中で、小学校や病院、地域の方と連携して街作りを計画していること。はじめて聞いたのでとても楽しみだと思いました。
- ・ それぞれの企業が行っている事を互いに共有が上手く行えていない事が印象的でした。困り事や行っている事を開示していく事は、企業間だけでなく、個人間でも大切な事だと感じました。

(4. 概ね満足)

- ・ 課題が見つかりましたが、またフィードバックの場を頂けたら嬉しいです。
- ・ 農の大切さを再認識しました。
- ・ 他業種の意見・考え方を聞けて、今後の参考になった。
- ・ いろいろな御意見、大変勉強になりました。
- ・ 仕事で遅れてしまって前半が聞けなかったので、内容には様々な職種の方の話し（取りくみ）を聞けてとても勉強になりました。

6. 円卓会議で印象に残ったこと

- ・ つながり、弱さの公開の大事→つながり、きずなとなる。
- ・ 「その人」の人となり、潜在的な部分を発掘し、共有し発信する、マッチングする力が沢山必要だと思いました。
- ・ 情報が多すぎて…泰さんの話がよかったです。
- ・ ふるさと納税で資金を集める
- ・ 利用者だけではなく、自分達の取り組みを評論すること、フィードバックする事の大切さ。
- ・ 普段きけない話がたくさん聞けてよかった。
- ・ 情報の大切さをあらためて感じた。
- ・ 地域再生推進法人、行政計画

(写真) 会場の様子



ヨナグニ出張 認知力72 ↓ ③ 母の17歳 認知症 まだわからず 支援がない あきらめた 勉強会	認知症の子どもも ドラゴンフルーシ 解きにくい 楽しめよう 0151 ↓ ④ 母の17歳 認知症 まだわからず 支援がない あきらめた 勉強会 ↓ 認知症の子どもも ドラゴンフルーシ 解きにくい 楽しめよう 0151
合糧自給率 37% 競争とあいにく 上げていく 150% ↓ 平和的 解決しか 成果物	はばかす 0151 年性 大車 0 居場所づくりの走り ④ 合. 在 認知を考えていく ↓ 居こころがいい 0 ネットワークづくり 0 大々々々々 仲間って 高かりを
皆がつかえる 002 も含めて ドラゴンフルーシの育ち 広げているが ↓ 子ども食堂	

感じた事

- ・農業は、天候に左右されることもある。
- ・学生(小学校)の児童に対して、認知症についての理解や実際に聞いている方たちから話をとる。
- ・また、認知症クイズに答えている方たちから農業について教えてもらう。
- 認知症の面談ができた

② 雨天時や暑い日の対応

- 病院へ入ったり中(室内)で土づくりの話をしたりしている。
- 主催側都合で、時間外に後にならなりました。

・サイタマ県
病院に併設されている畑で育てて、病院で食糧に活用されている。

雨天時 → 押し花などを作成
育てるのを花かきと育てたりしている。

最近、キムチビジュアルなどの共同理を行っている。

わがやのスタンプ作り

③ 近隣で協力して解決していく方法もある。(課題)

- ・1人1人に声をかけて協力。(連携)
- 貝学 → 第1歩

- ・障害者理解がすすむと
サポートにつながりやすい。
- ・住んでいる社会で
サポートし合える事が大切
- ・情報提供の機会が大切

- ・障害者理解 → サポートし合える。
- ・住んでいる社会で サポートし合える事が大切。
- ・企業との関係：認知症でも同じ
本人の居場所
情報提供の
機会 → できる人を探し出して
1つの企業も、行政と連携すると。